

Ⅰ 学力を育む

令和7年3月に、本県の教育の基本的な方向性を示す「しまね教育振興ビジョン」を策定した。

本ビジョンでは、すべての子どもが学びの主人公として成長していくことを目指し、「学びの土台をなす人間力」「学びの中核をなす学力」「学びを展開する社会力」を相互に関連付けながら育成していくことを示している。

このうち、「学びの中核をなす学力」は、子どもたちが学びの中で「できた・わかった・やってみたい」を実感しながら、自らの学びを深め、次の学びへと向かっていくための基盤となるものである。基礎的な知識・技能を確実に身に付けることにとどまらず、それらを活用しながら、自ら問いを立て、考え、判断し、表現し、粘り強く課題の解決に取り組む力を含むものとして捉えている。

複雑化・多様化する現代社会においては、受け身の学習にとどまるのではなく、子ども自身が学びの意味や価値を見だし、主体的に学び続ける姿が一層求められています。そのため、本県では、学力を人間力や社会力と切り離して捉えるのではなく、三つの力が相互に関わり合いながら育まれるものとして整理し、教育活動を進めていく。

こうした考えのもと、本県では、学力を「学びの土台をなす人間力」「学びの中核をなす学力」「学びを展開する社会力」と関連付けて捉え、それぞれに含まれる次のような資質・能力の育成を図ることとしている。

Ⅰ 育てたい資質・能力

学びの土台をなす人間力

- (1) 自分の心身の状態を把握し、健康でバランスの取れた生活をおくる力
- (2) 自分を含むすべての人の権利を尊重して行動する力
- (3) 自分の良さや可能性を認識し、夢や希望をもって未来に挑戦する力
- (4) 困難に挫けず、障壁を乗り越えようと粘り強く取り組む力
- (5) ふるさと島根への愛着と誇りをもち、その未来を考えようとする力

[しまね教育振興ビジョン]



学びの中核をなす学力

- (1) 学ぶことの意味を理解し、主体的に学びに向かう力
- (2) 基礎的な知識及び技能を身に付け、学んだことを活かして探究する力
- (3) 問題を発見し、定義する(問いを立てる)力
- (4) 多様な情報を収集・蓄積し、読み解いたり分析したりする力
- (5) 自分の考えを、自分の言葉で説明し、自分らしく表現・発信する力
- (6) 既存の枠組みにとらわれず、新たなアイデアや方法を生み出す力

学びを展開する社会力

- (1) 地域・社会の維持・発展に貢献しようとする姿勢
- (2) 多様性を認め、相手を尊重するとともに、相互に支え合う姿勢
- (3) 他者と協働して課題を創造的に解決していく力
- (4) 環境問題や持続可能な社会の構築に関する意識や行動力

[第2期しまねの学力育成推進プラン]



本ビジョンに示すこれらの資質・能力のうち、「学びの中核をなす学力」の育成に関わる取組を具体的に推進するため、令和7年度から令和11年度までを実行期間とする「第2期しまねの学力育成推進プラン」を策定し、学力育成に関する取組を体系的・継続的に進めていく。

2 めざす授業像

「第2期しまねの学力育成推進プラン」では、子ども一人ひとりが学びの中で「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくりを共通のめざす姿としています。

この「めざす授業像」を、次の5つの目標として具体化し、学校における授業改善を進めていきます。

※目標1～5の囲いには、「めざす児童生徒像」を記載しています。

目標1 基礎学力を育成する授業づくりの推進

次学年以降の学習や実生活において必要とされる基礎学力や、学びを組み立てる力を全ての児童生徒が確実に身に付けられる授業

○既習の内容を着実に身に付け、それをもとに新しい学習に「できる・わかる」という実感を持って取り組んでいる。○学んだことを実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしようとしている。○個人で学んだことをみんなと共有し、助け合いながら、共に学びを深めている。○間違えたところや、理解していないところを分かるまで学習している。

目標2 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

生涯にわたって学習するうえでの基盤となる、問いを立てる力、情報を収集・蓄積・読解・分析する力、自分らしく表現する力を育む授業

○各教科等の特質に応じて問いを立て、課題を設定している。○解決までの見通しをもち自ら学びを組み立て、意欲的に学んでいる。○集めた情報を活用し、自分らしく表現している。

目標3 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

子どもたちが自ら問いを立て、答えを探す楽しさを味わう経験の積み重ねを通して、自分のよさや可能性を感じるとともに、学びへの意欲や粘り強さ、探究心をのばす保育・授業

○子どもたちが主体的に「なぜ?どうして?」という問いを立て、探究の過程の中で考えを広げたり、深めたりしている。○授業で学んだことを生かしながら地域社会や自分の生活のなかの課題の解決に粘り強く取り組む中で、自分のよさや可能性、成長を理解している。

目標4 ICT を効果的に活用した授業づくりの推進

児童生徒が一人一台端末等を日常的に活用して、主体的に学習を調整することにより、情報手段を適切に学びに生かし、よりよい学び方を自ら追求する力を育成する授業

○一人一台端末等を授業で日常的に活用し、身に付けた情報活用能力を適切に学びに生かしながら、よりよい学び方を自ら追求している。

目標5 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進

集団における授業の工夫や合理的配慮の提供により、多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に応じた、全ての子どもにとって分かりやすく楽しい授業

○自分の興味・関心や強みを生かしながら、進んで学習活動に参加している。○自分に合った学び方を選択・決定し、自己調整を図りながら粘り強く学習に取り組んでいる。○互いを認め合える学習集団の中で、多様な他者と協働し、関わり合い、学び合いながら学習に取り組んでいる。

次ページからの「**2** 授業づくり」に、上記の「めざす授業像」の目標1～5の推進項目とその具体について記載しています。